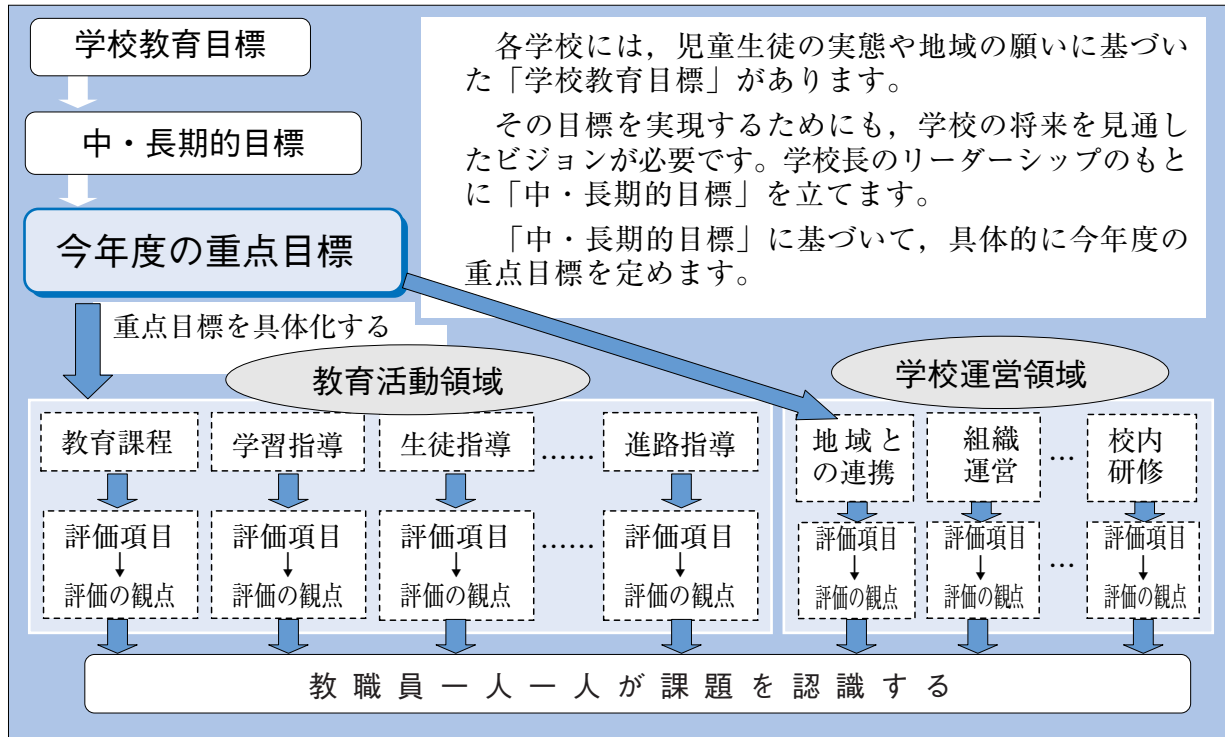


3 評価計画の作成

(1) 重点目標の設定



目標の設定

まず、学校の「中・長期的目標」や前年度の評価活動をもとに、今年度の重点目標を定めます。目標はできるだけ焦点化し、具体的なものにします。

重点目標は
焦点化する

職員間の 共通理解

職員間の共通理解なくして、目標達成はあり得ません。各校務分掌での討議の上で、職員会で十分に話し合い、共通理解を図りましょう。

計画の公表と説明

保護者や地域の人々に対して「今、学校が何をしようとしているのか」を知ってもらうことが大切です。PTA・学校評議員・ホームページ等を活用して、学校の指導方針や今年度の重点目標について、公表・説明をしましょう。

発信の時代

(2) 評価項目の設定

学校の教育活動は、児童生徒に直接かかわる活動と、学校をスムーズに運営するための活動に分けることができます。ここでは、前者を「教育活動領域」、後者を「学校運営領域」と呼ぶことにします。

教育活動領域

「教育活動領域」では、教育課程、学習指導などを一つの対象とし、対象ごとに今年度の重点目標に対応する重点活動を定めます。これが評価項目です。各学校が大切だと考える重点活動を設定することによって「その学校らしさ」が出てきます。

評価項目を設定する過程では、教職員が全員で十分に話し合い、一人一人が責任を持って参画しようとする意識が持てるようにしましょう。

評価項目が
「その学校らしさ」

MEMO

重点目標を実現するための重点活動が評価項目ですから、必ずしも教育活動領域、あるいは学校運営領域のすべてを網羅して評価項目を立てる必要はありません。

学校運営領域

重点目標実現のためには、学校が、教育活動を行う組織体として機能していることが必要です。「学校運営領域」では、学校運営が、重点目標実現のための日々の教育活動を機能的に支えているかどうかについて評価をします。

評価対象としては、学校内の組織、保護者や地域との連携などが考えられます。

また、学校自己評価システムそのものが機能しているかどうかチェックしましょう。

(3) 評価の観点の設定

評価の観点をあらかじめ設定することによって、取り組んできた活動の成果と課題を明らかにし、具体的な改善策・向上策につなげることができます。

そのためには、評価の観点は具体的・客観的であることが求められます。また、行き過ぎた成果主義に陥らないために、結果だけでなくプロセスの評価も大事です。

(4) 評価の時期

評価は、活動の成果と課題が最も明確になる時期に実施します。行事などの場合は終了直後の実施が考えられます。また、年間を通して行われる活動については、年度末の評価に加えて、中間評価をすることが考えられます。たとえば、学期ごとに行ってきた活動の様子を振り返り、成果を検証することで、改善策・向上策を早めに講じることができます。中間評価を通じて教職員の共通理解を深めることもできます。

課題に対する素早く柔軟な対応は、教育への期待・関心が高まっている今日、より一層重要になっています

中間評価で
素早い対応

MEMO

学校自己評価委員会とは

自己評価活動が機能するためには、中心となって運営する校務分掌上の組織が必要です。校務分掌全体を見直す中で、これまでの組織を活用したり、新たに学校自己評価委員会をつくったりするなど、学校にふさわしい組織づくりを工夫しましょう。